

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立五並中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-3113
愛知県豊橋市細谷町北芋ヶ谷30番地の44

E-mail inami-j@toyohashi.ed.jp
Website _____

幼児児童生徒数 男子 81 名 女子 49 名 合計 130 名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「表浜プロジェクト」と「キャリア教育」を活動テーマとして、ESDを地域とのつながりを体験的に学ぶことと捉え、ESDの実践を通して、体験的な活動の中からよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目標とした。

具体的には、福祉実践教室、農業体験学習、環境学習を柱に、①福祉に係わる活動、②地域の農業に係わる活動、③環境に係わる活動を行った。

①福祉に係わる活動

福祉実践教室

1年生の総合的学習の後期は、福祉をテーマに、個々の調べ学習から始めた。各自調べたことをもとに、11月に、1人2講座を選択し、福祉実践教室を受講した。点字、手話、車いす、要約筆記、音訳、高齢者疑似体験の6講座から、2講座を体験した。車いすは、少しの段差でも乗り越えていくのが難しくなり、見ただけではわからないその困難さを、身をもって体験した。互いに助け合い、互いの存在を尊重し合う心を育てるためには、相手の立場に立つ経験が不可欠であり、今回の実践教室は子どもたちにとって、心を成長させるための大きな経験となった。

②地域の農業に係わる活動

農業体験学習

2年生は9月末に、地元の農家の協力を得て、農業体験活動を行った。五並地区は農業の盛んな地域であり、そこに住む生徒たちが農業と触れずに大人になっていくのは寂しいものがあると感じ、体験活動を行った。私たちが毎日食べる野菜や果物一つ一つに、多くの手間がかかっていることを知り、農業への理解を深めたり、食への感謝の気持ちを持ったりすることにつながった。今回の体験活動後に書いた生徒の感想には、「農業も将来の選択肢の一つにしても・・・」と書いた生徒もいた。それだけ今回の体験は生徒たちにとって有意義なものとなった。

③環境に係わる活動

環境活動

修学旅行の際に、「FOR THE TEAM」環境学習～踏み出そう！社会貢献への第1歩～というテーマを掲げ、企業が行っている環境への様々な取り組みを学びに訪問させていただいた。発電会社を訪問したグループでは、水力発電や太陽光発電などの環境に優しいとされる発電方法にも施設をつくるための費用や自然への影響や発電効率等に課題があることを学んだ。他にも、「ごみ処理」、「化学物質が人体に与える影響」、「大都市を支える水」などをテーマにそれぞれ追究し、実際の企業や研究所が環境や人々の暮らしを守るために努力したり、工夫したりしていることを学んだ。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

表浜まるごと博物館のパンフレット 出向いた各企業等でいただいた資料やパンフレット (ウェブサイト)
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールの活動は、主に総合的な学習の時間の取り組みとして位置づけている。

本校の総合的な学習の時間には、柱が二つある。一つはキャリア教育で、もう一つが表浜プロジェクトである。この表浜プロジェクトを教育課程に定め、教科横断的な指導計画を立て、各学年で取り組んでいる。

表浜プロジェクトとは、表浜の自然を守り、これからも大切にしていこうという気持ちを育てるために三年間を通して行っている環境学習である。これまでは、ウミガメに焦点をあて、季節外れに産卵に来たウミガメの卵を孵し、学校で育てるといった活動を行ってきたが、これは、環境に優しい行動ではないと生徒たちが判断し、ウミガメを育てることは断念した。

現在は、表浜の保全だけでなく、五並校区全体の環境や農業・福祉について学び、地域との関係を重視した実践を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

組織的・継続的に取り組めるようにするため、本校では、各学年の大きな行事と絡めて取り組むようにしている。

まず、1年生は野外教育活動を通して、表浜の実態を掴む。2年生は名古屋分散学習を通して、県レベルでの環境に対する対策などを学ぶ。そして、3年生は修学旅行を通して、国レベルでの環境に対する対策などを学び、最終的に、郷土の自然や表浜の環境を守るために何ができるのだろうと考え、実践する態度を養うようにと取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校アンケートによって評価を行ったところ、生徒・教師は、真剣にユネスコスクールとしての活動を行い、課題に対して自分の考えをもって体験先に出向き、自分の考えをもち、さらに、生徒相互の交流を行って、自分の考えを深めることはできたという結果を得た。

しかし、「生徒自身が本当に学びたい」という主体的な活動になっていたかという点で疑問が残った。今後、教育課程を再構築し、アクティブラーニングを積極的に導入していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本年度は、生徒一人一人の学びを新聞やポスターにまとめ、文化祭の場で地域の方々にも見ていただける場を設定した。

生徒たちは、調べ学習で学んだことと実際に人や企業・地方公共団体の人々から教えていただいたこと、また、体験したことをまとめることができた。また、学級や学年発表会を通して、自分の考えを深めることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

日本ウミガメ協議会理事、ラムサール・ネットワーク日本理事を務めてみえる田中雄二氏より、毎年、表浜の状況について実地調査や講演をいただいている。

また、2年生・3年生は、名古屋市や東京都などの大学や企業、各種施設に出向き、お話を聞く機会を設けている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

今後、表浜のようにウミガメが産卵に来る浜をもつ、中学校とのネットワークができると、教師も生徒も刺激を受け、学びも深まるであろうと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの考えを大きく捉え、本年度は、1年生で福祉実践教室、2年生で農業体験学習も行った。1年生は、福祉実践教室で人権についての考えを深め、2年生は、地域の人とのつながりを感じ、農業体験からも環境についての考えを深めることができた。

地域・校区の方々の方々の大きな協力を得てできた実践である。教師・生徒が主体的に企画し、実践したなどという点で、大きな成果を得ることができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200~400 字程度)

これまで行ってきた表浜プロジェクトを今後も継続して行っていく。
しかし、主体的な活動になっていたかの疑問を払拭するため、アクティブラーニングを取り入れて実践を行っていく。

1 年生は野外教育活動、2 年生は名古屋分散学習、3 年生は修学旅行という行事と絡め、様々な人と出会い、コミュニケーションをとって学びを深めさせていきたい。

また、平成 29 年度からはじめた、1 年生での福祉体験学習や 2 年生の農業体験学習も取り入れる。時間数も限られるので、教科横断的な学習課程を組んで実践を行っていききたい。